大学教育学会ニュースレター

No.105　　2017.4.18

一般社団法人大学教育学会　（*Japan Association for College and University Education*）
事務局：　〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204
TEL/FAX：（042）707-8112
郵便振替口座：00210-9-102857　一般社団法人大学教育学会
E-mail:**jacue.office@gmail.com**　　URL：http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

大学教育学会第39回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 39 回大会（2017 年）
大会実行委員長　宮谷 真人 （広島大学理事・副学長）

大学教育学会第 39 回大会を、広島大学東広島キャンパスにて、6 月 10、11 日の両日開催させていただくことになりました。

本大会の統一テーマは「教養教育の再考」です。戦後一般教育を重視した新制大学が発足して 70 年近くが経ち、また、大学設置基準の大綱化から 26 年が過ぎようとしています。その間、大学では教養教育をどのように実施していくのか悩み続けてきました。大綱化以降、学士課程教育は専門教育と教養教育を統合して実施されることになりましたが、専門教育重視によって教養教育が侵食されていることや教養教育の理念が崩壊して無規範状態に陥っていること、さらには実施責任体制の弱体化や人的・物的資源が不足していることが指摘されています。特に最近では、社会的な変化や経済のグローバル化に伴い、大学に求められる教養教育の方向が大きく変化し、その対応に迫られています。しかし、その一方で、グローバル化への危惧や民族主義的な考えを基調とする排他的な雰囲気も醸し出され、世界の未来が混沌としてきているのも事実です。このような中、日本の大学はどのような教養教育を行なえば良いのでしょうか。そこで、本大会では、社会状況や大学の環境が大きく変化する中、先行きの不透明な時代における大学そのものの役割を踏まえながら、教養教育のあり方について改めて議論する場にしたいと考えています。

基調講演者として、池内了氏をお招きし、「大学と社会―教養教育に期待すること―」と題する講演をお願いしています。社会や文化との関係から科学の在り方について数多くの提言をしてこられた池内氏のお話から、大学における教養教育の在り方について様々な示唆が得られることと思います。

基調講演に続くシンポジウム「危機に立つ教養教育―大綱化後四半世紀の課題と将来―」では、三名のシンポジストにご報告を頂きます。まず、近藤孝弘氏（早稲田大学）よりヨーロッパの市民性教育とそれを踏まえた日本の高等教育への提言をご報告頂きます。続いて、本学会の課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」(2013-2015)で数理科学分野における質保証の検討に取り組んでこられた高橋哲也氏（大阪府立大学）より、教養教育としての数理科学教育の必要性と課題についてご報告を頂きます。さらに、「平和を希求する精神」を大学の基本理念に掲げる広島大学において、教養教育必修科目「平和科目」を担当されている布川弘氏（広島大学）より、平和教育の観点から大学の教養教育のあり方についてご報告を頂きます。指定討論者の羽田貴史氏（東北大学）には、各報告へのコメントをいただきます。

なお、ラウンドテーブルは 14 件、自由研究発表は 104 件と、多くの発表申し込みをいただいています。ぜひ本大会にご参加いただき、活発な質疑と討論を通じて新たな知見の創出に関わって頂ければと思います。会場は、基調講演・シンポジウムはサタケメモリアルホールで、ラウンドテーブル・自由研究発表は総合科学部の講義棟で行います。雨季の折、皆様にはご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、できるだけ快適にお過ごしいただけるよう大会を運営する所存です。

多くの皆様と酒どころ東広島市でお会いできることを楽しみにしています。

大学教育学会第 39 回大会（2017 年）

統一テーマ

「教養教育の再考」

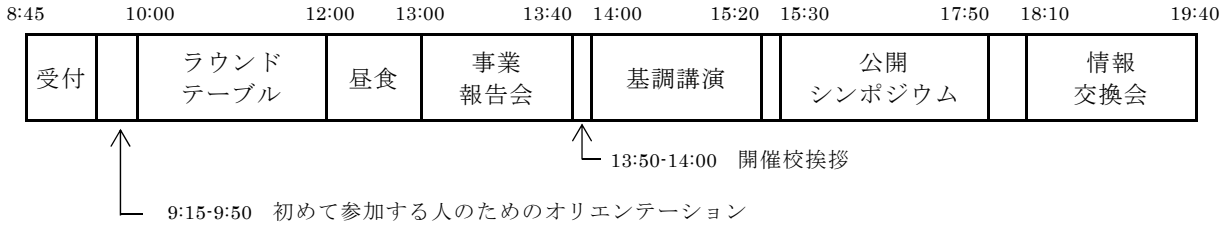
1. 開催期日および会場

期 日　2017（平成29）年6月10日［土］、6月11日［日］
会 場　広島大学総合科学部（広島県東広島市鏡山一丁目7番1号：JR西条駅下車）

総合科学部講義棟(K棟)　：大会受付、オリエンテーション、ラウンドテーブル、自由研究発表、ポストワークショップ
サタケメモリアルホール　：事業報告会、基調講演、公開シンポジウム
大学生協西第2福利会館　：情報交換会
学士会館　：理事会、定時代議員総会

2. 大会日程

第 1 日：6月10日［土］



8:45	受付開始
9:15 - 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 - 12:00	ラウンドテーブル
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:40	事業報告会（2016 年度会長特別賞授賞式及び JACUE セレクション 2017 認定状授与式を含む）
13:40 - 13:50	休憩
13:50 - 14:00	開催校挨拶
14:00 - 15:20	基調講演　池内 了氏（名古屋大学名誉教授） 講演題目「大学と社会－教養教育に期待することー」
15:20 - 15:30	休憩
15:30 - 17:50	公開シンポジウム 「危機に立つ教養教育－大綱化後四半世紀の課題と将来－」
18:10 - 19:40	情報交換会

* 6月10日（土）情報交換会終了後の若手研究者交流会について
情報交換会終了後に、毎年好評の若手研究者交流会を予定しております。学生・大学院生、入職後約5年以内の教職員の皆さんなど、同じ立場の仲間と研究、教育、実践、キャリアに関する情報交換をしましょう。是非新たなネットワークを構築しましょう。非会員の方も参加できます。
日時：2017年6月10日（土）20時30分～22時30分
場所：「坐・和民」 広島西条駅前店　定員：先着50名　予算：3,000円（フリードリンクつき）
申込：大会の参加登録画面から申し込みをしてください(詳しくは17頁を参照)。締切：5月12日（土）
大会参加申し込み　URL：http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku39
※都合によりキャンセルされる場合は、6月7日(水)までに必ずyngmbs@googlegroups.comまでご連絡ください。それを過ぎますとキャンセル料が発生する場合がございます。ご了承ください。

第 2 日：6月11日［日］

9:00	9:30	12:00	13:00	15:00	15:15	16:45
受付	自由研究発表Ⅰ	昼食	自由研究発表Ⅱ		ポストワークショップ	

9:00	受付開始
9:30 - 12:00	自由研究発表Ⅰ
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 15:00	自由研究発表Ⅱ
15:00 - 15:15	休憩
15:15 - 16:45	ポストワークショップ（*事前申込者のみ）

関連行事：6月9日［金］

13:00 - 18:00	理事会、定時代議員総会

*6 月 11 日（日）ポストワークショップについて

本学会活動の大学教育改革への貢献の可視化と会員の能力開発を促すため、ポストワークショップ（各定員 50 名、有料）を実施いたします。今大会では「アクティブラーニング型授業の基礎」と「思考を鍛えるアカデミックライティング入門」の 2 種類を実施します（同時刻開催）。参加をご希望される方は大会参加申込と合わせてお申し込みください（詳細については 17 頁を参照）。

○ポストワークショップ A「アクティブラーニング型授業の基礎－教師と学生との関係性・身体性に焦点を当てて」講師：溝上慎一会員（京都大学）　会場：K202

アクティブラーニング型授業を実施する、しないのハードルがまずあるが、実施し始めて多くの教員がつまずく大きな問題の 1 つに、「教師と学生との関係性」がある。典型的な問題状況は、ペアワーク、グループワークに参加していない学生がいても注意しない、見て見ぬ振りをするというものである。これを見逃して、学生がホンキで学び成長する授業をつくることはできない。ホンキで参加している学生も不愉快な学生といっしょにグループを組むこととともなり、お互いにとってアンハッピーな授業となる。私語でうるさくなっている授業を、学期途中で立て直すのは無理である。コース 1 回目のイントロダクションから学生のマインドセットをつくっていき、私語を許さない授業をつくることが重要である。アクティブラーニング型授業もまったく同じである。当日は、1 回目のイントロダクションに焦点を当ててワークをおこなう。これにあわせて、学生からの「見られる」をつくる「身体性」の意義についても概説する。参加者はワークに参加してもらう必要があるが、それさえ問題なければ職員等も参加歓迎である。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、溝上慎一編（2017）『改訂版 高等学校におけるアクティブラーニング 【理論編】』（東信堂）が配付されます。

○ポストワークショップ B「思考を鍛えるアカデミックライティング入門－アクティブラーニングによる授業展開」講師：井下千以子会員（桜美林大学）　会場：K302

「大学の勉強は役立つの？」という学生の素朴な疑問を大切に、何をどう学ばせるのか、初歩的なアカデミックライティングの指導例を通して、学生が「学んだ」と実感できる授業をいかに創り上げていくかをともに考えていきましょう。まず、配布テキストを用いて、指導のツールとなる、基本フォーマット・見本レポート・自己点検評価シート・ワークシートをいかに使いこなし、授業を展開していくのかを解説します。さらに、調べた資料をどう整理し論理を組み立てていくのか、そのプロセスをいかに主体的に学ばせるのかを体験していただきます。スマートフォンあるいはパソコンなどインターネットに接続できる機器をご持参ください。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法【第 2 版】』（慶應義塾大学出版会）と井下千以子（2017）『思考を鍛える大学の学び入門－論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶應義塾大学出版会）が配付されます。

進行の詳細

6月10日（土）

8：45～　　受付

9：15～9：50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

会 場：K211　　**担当**：大学教育学会常務理事　濱名　篤（関西国際大学）

10：00～12：00　ラウンドテーブル

テーブル１　障害学生支援の現状と課題および地域連携の在り方について

会　場：K303

企画者：小川勤（山口大学）、枝廣和憲（名古屋市立大学・立命館大学大学院）、青野透（徳島文理大学）、岡田菜穂子（山口大学）、大島啓利（広島修道大学）、山本幹雄（広島大学）、吉武清實（東北大学）、山中淑江（立教大学）

趣　旨：平成 28 年 4 月より差別解消法が施行され、各大学等では対応要領、留意事項等の学内規則の整備や支援室の設置および専任教員の配置等の環境整備が進んでいる。その一方で、合理的配慮の提供を巡って、何が「均衡を失したもの」にあたり、どこから「過度な負担」とみなされるのかといった判断基準を巡って支援する側とされる側とで見解の相違が生じ始めている。また、大学の規模によりマンパワーや財政状況等が大きく異なり、特に小規模の大学等では十分な合理的配慮の提供が難しくなっている。そこで、これまでの支援の現状と課題を論点整理するとともに、支援をめぐる地域連携の在り方についてその実態と課題について報告し協議する。

テーブル２　現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践

会　場：K304

企画者：細川敏幸（北海道大学）、鈴木久男（北海道大学）、斉藤準（帯広畜産大学）、吉永契一郎（金沢大学）、齋藤芳子（名古屋大学）

趣　旨：本研究では、日本の大学への STEM 教育導入を早期に具体化するために、「新しい STEM 教育の具体的な導入例としてのティーチング・ティップス（TT）構築」と「文理融合の新しい STEM プログラムの開発」に関する発表を以下のように計画している。TT 構築：導入例として北大の STEM 教育を紹介し、構築の可能性を検討する。STEM プログラムの開発：日本での STEM 教育拡充のためには、リベラル教育の中にいかに組み込むかを検討する必要がある。そのために、北米や EU 諸国での STEM 教育の調査結果を紹介するとともに、日本国内の教育環境に適合した STEM 教育の理念ならびに導入方法を検討する。

テーブル３　大学生の学びを生成する学習環境・学習支援のデザインを考える －ラーニングコモンズ・学習支援の現状分析、支援スタッフの育成－

会　場：K305

企画者：岩崎千晶（関西大学）、村上正行（京都外国語大学）

趣　旨：教育の質保証への関心が高まり、正課学習に加えて、ラーニングコモンズにおける学習相談やライティングセンターなど正課外に学習者の学びを促す学習支援の取り組みが盛んに実施されている。本ラウンドテーブルでは、ラーニングコモンズで展開している学習支援の現状（設置場所・学習支援内容・支援担当者等）、ルーブリックや e ラーニング教材など学習者の学びを誘う学習支援ツールのあり方、学習支援に取り組むスタッフの教育プログラムの開発など、多面的な視点から大学生の学びを生成する学習支援を捉え、その研究成果を報告し、ラーニングコモンズを主軸とした学習環境ならびに学習支援のあり方について検討するラウンドテーブルとなっている。

テーブル４　アクティブラーニングの組織的導入の意義とその効果

会　場：K306

企画者：本田周二（大妻女子大学）、森朋子（関西大学）

趣　旨：アクティブラーニングは、今や初等教育から高等教育に至る学校教育の全段階の中心的施策として導入されてきている。企画者らは、これまでに、多くの大学との連携・協力体制のもと、アクティブラーニングの教育効果について検証をすすめてきた。しかし、その取り組みは個人レベルから組織レベルまで幅広く、なかでも組織レベルでアクティブラーニングを導入している事例は数少ない。本ラウンドテーブルでは、組織的にアクティブラーニングを導入してきた大学による事例を紹介し、その意義と教育効果に関する報告をもとに、組織としてアクティブラーニングを導入するあり方について参加者とともに議論することを考えている。

テーブル５　地域連携学習（コミュニティー・ベースド・ラーニング）の設計・運営・評価とその担い手のあり方について考える

会　場：K307

企画者：林透（山口大学）、眞鍋和博（北九州市立大学）、猪股歳之（東北大学）、岩瀬峰代（島根大学）、西村君平（弘前大学）、山下貴弘（山口大学）

趣　旨：我が国の大学教育は、2000 年以降、大学間連携を通した単位互換制度や共同教育プログラム開発の取組を促進してきた。その後、2014 年度から始まった文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC)」、さらには、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」を契機に、大学とステークホルダーが協働して、大学教育の実践共同体の形成を通した地域連携学習（コミュニティー・ベースド・ラーニング）が広がりつつある。政府の地方創生の政策動向や各地域の実践事例を紹介しながら、共通テーマである地域連携学習（コミュニティー・ベースド・ラーニング）の設計・運営・評価とその担い手のあり方について、参加者とともに考えてみたい。

テーブル６　一般教育の知的遺産を活かす（その９）

会　場：K310

企画者：志津木敬（広島大学）、竹下賢（関西大学）、山本伸也（関西学院大学）、杉本孝作（四国学院大学）、徳永哲也（長野大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）

趣　旨：『一般 general』の意味」は、一般教育には概念規定が伴われることを示唆する項目です。しかし「〔一般教育学会設立趣意書参考資料〕一般教育の研究領域及び研究課題」では、掲載されることもなく終わりました。社会秩序の維持と更新に求められる適応範囲では、ジェネリック・スキルやアクティブラーニングの基礎として位置づけられる項目です。学会名称変更から 20 年を迎えます。（その９）では、「『一般 general』の意味」を取り上げます。多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

テーブル７　保健医療福祉系大学における教養教育の問題（8）- 我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか

会　場：K311

企画者：小野滋男（北海道医療大学）、志水幸（北海道医療大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）、遠藤良仁（岩手県立大学）、森元拓（山梨大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、宮本雅央（群馬医療福祉大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、早川明（龍谷大学短期大学部）

趣　旨：サブ・タイトルは、画家ゴーギャンによる難問である。そこには、生命の問題、人間とは何か、技術はいかにあるべきか等々、教養教育が応えるべき本質的課題が提起されている。世界史的視点からみれば、大会会場となる「HIROSHIMA」は、当該課題を検討する上での原点の地とも言えよう。そこで、我々は、過去 7 回に及ぶ議論から得られた知見をもとに、改めて専門職養成教育における教養教育の本質的意義について議論したい。

テーブル８　新しい時代の教養教育のコンテンツとコンピテンシー ―教養としてのイノベーション教育を中心に―

会　場：K312

企画者：佐藤浩章（大阪大学）、佐藤文亮（ワークスアプリケーションズ）、松行輝昌（大阪大学）、中島夏子（東北工業大学）

趣　旨：本 RT では、第四次産業革命を踏まえた新しい時代の教養教育カリキュラムを提起することを目的とする。その際、以下の 3 点を特徴とする。第一に、何を教えるかという「コンテンツ」と、どのような能力を身につけるのかという「コンピテンシー」の両方を議論する。第二に、教養教育「論」ではなく、実施可能なカリキュラムとしてデザインやマネジメントの方法を議論する。第三に、教養教育に関わる大学教員の視点だけではなく、学生や企業等の視点を入れて議論する。当日はスタンフォード大学の一般教育改革の事例、ならびに大阪大学や京都大学で試行されているイノベーション教育の事例を踏まえて、参加者とともに議論する。

テーブル９　大学における社会人の学び直しをいかに組織するか

会　場：K204

企画者：夏目達也（名古屋大学）、山田礼子（同志社大学）、杉本和弘（東北大学）、渡辺達雄（金沢大学）

趣　旨：大学における社会人の学び直しは、政府が重要施策に位置づけて展開している。社会人向けに大学を開放する活動以前からみられ、その一つの公開講座は現在 100 万人以上が参加している。日本だけでなく、世界の主要国でも多様な取り組みがみられる。政府がいま新たに取り組もうとしているのはなぜか、それに大学はいかに対応すべきなのか。これらの問題を世界の動向・取り組みと比較することで検討する。主に以下の問題を扱う。

・各国の高等教育における社会人の学び直しの政策動向とその特徴
・日本と各国の大学における実施状況と課題
・大学の初期教育の改革にいかにつなげるか。関連して得られる示唆は何か。

テーブル 10　リメディアル教育を語り合う

会　場：K205

企画者：児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）、居神浩（神戸国際大学）、鷲北貴史（高崎経済大学）

趣　旨：リメディアル教育の実践者にとって大切なことは、常に自分の体験から出発して、正直に、考えていく姿勢をもつことだ。成果の発表が中心となる学会において、本ラウンドテーブルは、リメディアル教育の現場で葛藤する教職員の悩みを正直に共有することを狙いとする。いわゆる大学教育論が見ていない、見ようとしていない諸問題とは何なのか。リメディアル教育に関心を持っている者だからこそ見えている現実とは何なのか。本ラウンドテーブルではリメディアル教育に関心を持ったきっかけを紹介し、何に悩んでいるのか、どんなディレンマを抱えているのかを語り合いたい。成果の発表ではなく、悩みの共有に重きを置いたラウンドテーブルである。

テーブル 11　学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅸ－「主体的・対話的で深い学び」を見える化する－

会　場：K101

企画者：米田敬子（文教大学）、高橋真義（桜美林大学）、中村拓昭（九州産業大学）、十河功一（九州女子大学）、菊地勇次（文部科学省）、杉原亨（関東学院大学）、田尻慎太郎（横浜商科大学）、郷原正好（九州大学）

趣　旨：これからの日本の社会は、予測することが困難な変化に直面する。教育においても、学生の能力をどのように育むのかが焦点となる教育改革がおこなわれている。学生の主体的、能動的な学びの実現が重要となり、教育に携わる教職員の視点の転換、関わりの多様化などが求められる。本ラウンドテーブルでは、「主体的・対話的で深い学び」について、多面的多層的に見える化し、議論をする。参加者とのグループワークにより、学生が目を輝かせる大学教育の新たな

可能性を探ることとする。

テーブル 12　大学アドミニストレーターの新しい役割と可能性－大学スポーツ振興に向けた行政の取り組み－

会　場：K102

企画者：長倉富貴（山梨学院大学）、小林勝法（文教大学）、松田優一（関西大学）、北徹朗（武蔵野美術大学）

趣　旨：昨年来スポーツ庁や経済産業省などで大学スポーツ振興に向けて検討が進められてきた。主要課題として日本版 NCAA の創設についても検討がされており、H29 年度の文部科学省予算では大学スポーツアドミニストレーターの設置が新規に計上されている。これはスポーツ分野に特化した大学アドミニストレーターを大学に配置し、日本版 NCAA 組織の創設にむけて大学側の準備を整えようというものだ。本ラウンドテーブルでは報告者から大学スポーツ改革の動向や大学助成金について、また、全国大学体育連合が実施する大学スポーツアドミニストレーター実証研究の報告を予定している。また、参加者とともに大学アドミニストレーターの新たな役割と可能性について議論する。

テーブル 13　アカデミック・アドバイジング－可能性と課題を考える

会　場：K104

企画者：清水栄子（愛媛大学）、山崎めぐみ（創価大学）、岸岡奈津子（追手門学院大学）

趣　旨：アカデミック・アドバイジングは学生の大学生活を成功に導くための履修を中心とした支援である。100 年以上前から米国で実施されているが、わが国においても近年、学生支援の一環として取り組まれている制度である。ただし、その方法や形態はさまざまであり、それぞれの大学の文脈 に沿った導入、運営が行われているのが現状である。本ラウンドテーブルでは、日本におけるアカデミック・アドバイジングの具体的な実践状況について、対象、実施組織、実践者の異なる創価大学、ＡＰＵ、県立広島大学、追手門学院大学の４事例について紹介していただく。その後、学生を成功に導くとうい観点からアカデミック・アドバイジングの可能性と課題について協議する。

テーブル 14　学生寮の新たな展開とインパクト　－学寮アシスタントの成長に着目して－

会　場：K105

企画者：安部有紀子（大阪大学）、望月由起（昭和女子大学）、橋場論（福岡大学）

趣　旨：近年学生寮は、「教育寮」という用語が表すように、単なる生活の場としてだけではなく、学生の全体的な成長を促進する場としての高い期待が寄せられている。一方で、学生寮には「学寮アシスタント」と呼称される先輩学生が支援者として携わることも多く、学生による他の学生の支援を通じて、学生同士のコミュニティを形成するとともに、双方向の学び合いと成長の効果を実感する教職員も多い。本ラウンドテーブルでは、日本の大学の現状についての事例報告と学寮アシスタントの源流と言われている米国大学の事例の報告を踏まえ、学生の学習促進に対する学生寮の効果や学寮アシスタントの成長の評価の可能性等について議論していく。

12：00～13：00　**昼食**

13：00～13：40　**事業報告会**

会　場：サタケメモリアルホール

13：40～13：50　**休憩**

13：50～14：00　**開催校挨拶**

14：00〜15：20　基調講演

会　場：サタケメモリアルホール
演　題：大学と社会－教養教育に期待すること－
講　師：池内　了 氏（名古屋大学名誉教授）
司　会：宮谷 真人 氏（広島大学 本大会実行委員長）

15：20〜15：30　休憩

15：30〜17：50　公開シンポジウム

会　場：サタケメモリアルホール
テーマ：危機に立つ教養教育―大綱化後四半世紀の課題と将来―
シンポジスト
　市民性教育の観点から　：近藤　孝弘　氏（早稲田大学）
　数理科学教育の観点から：高橋　哲也　氏（大阪府立大学）
　平和教育の観点から　　：布川　　弘　氏（広島大学）
指定討論：羽田　貴史　氏（東北大学）
司　会　：於保　幸正　氏（広島大学名誉教授）

17：50〜18：10　移動

18：10〜19：40　情報交換会

会　場：大学生協西第 2 福利会館

6月11日（日）

9：00〜　　受付

9：30〜12：00　自由研究発表Ⅰ　　（○は登壇者）

部会１　学士課程教育・カリキュラム
会　場：K103
司　会：濱名篤（関西国際大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）

9:30〜 9:50　2 学期クォーター制導入を学生･教員･事務職員はどう受け止めたか－神戸大学の事例－
　○近田政博（神戸大学）

9:50〜10:10　読書指導から協働執筆、そしてキャリア教育への流れ－学生の興味・関心に沿って－
　○影山陽子（日本女子体育大学）

10:10〜10:30　金沢工業大学の科学技術者倫理教育、開拓者としてのその 11 年間の取り組み－次の 10 年を見据えた、FD 活動としての教科書作成－
　○西村秀雄（金沢工業大学）

10:30〜10:40　休憩

10:40〜11:00　卒業研究の研究 その 2 ：米国における Capstone Experiences との異同
　○串本剛（東北大学）

11:00〜11:20　日本の大学における「文系」観、「理系」観の変遷に関する研究
　○前田裕介（長崎大学）

11:20〜11:40　高等教育の専門分野の違いによる、進路と教育内容の差異についての一考察
　○似内寛（東北福祉大学）○丸山智子（愛媛大学）、井上雅裕（芝浦工業大学、非会員）

11:40～12:00　総合討論

部会２　教育方法・授業改善(1)
会　場：K109
司　会：森朋子（関西大学）、村上正行（京都外国語大学）
9:30～ 9:50　リアクションペーパーの活用による授業改善報告
○鈴木基伸（大手前大学）
9:50～10:10　迅速な授業改善に結びつける対話型授業評価(Midterm Student Feedback)の意義
○筒井洋一（元京都精華大学）
10:10～10:30　ライト・アクティブラーニングのすすめ(2)
○橋本勝（富山大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　反転授業における学習過程への影響要因についての検討
○金西計英（徳島大学）、 高橋暁子（徳島大学、非会員）
11:00～11:20　反転授業予習用動画の視聴率 ～簡易版動画コンテンツの作成とその効果～
○古賀暁彦（産業能率大学）
11:20～11:40　アクティブラーニングのためのファシリテーター育成の試み２
○宮本知加子（福岡工業大学）
11:40～12:00　総合討論

部会３　教育方法・授業改善(2)
会　場：K110
司　会：佐々木一也（立教大学）、細川敏幸（北海道大学）
9:30～ 9:50　理工系学生を対象とした「トランス・サイエンス」思考醸成プログラムの展開
○岩田陽子（東京農工大学）
9:50～10:10　理工系グローバル人材に求められるパブリックエンゲージメントのためのスキル育成
○安村友紀（東京農工大学）
10:10～10:30　「持続可能性」を軸とする「主体的・対話的で深い学び」とは―ESD・環境教育の視点から
○二ノ宮リムさち（東海大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　高等教育における批判的思考力の育成（２）
○後藤康志（新潟大学）、下郡啓夫（函館工業高等専門学校）
11:00～11:20　「問い」を立てる能力とは何か
○須長一幸（福岡大学）
11:20～11:40　「学びの深さ」に影響を与える学習動機の類型化
○亀倉正彦（名古屋商科大学）
11:40～12:00　総合討論

部会４　教育方法・授業改善(3)
会　場：K203
司　会：溝上慎一（京都大学）、沖裕貴（立命館大学）
9:30～ 9:50　PBL の学習成果を評価する改良版トリプルジャンプに対する学生の認識
○小野和宏（新潟大学）、斎藤有吾（山口大学）、松下佳代（京都大学）
9:50～10:10　ルーブリックを活用したワークシートの振り返りの記述内容と学生の自己評価能力の変容との関連の検討 ―新潟大学歯学部における PBL の評価を事例として―
○斎藤有吾（山口大学）、小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）
10:10～10:30　理学療法学教育プログラムにおけるパフォーマンス評価と学生の学び
○平山朋子（藍野大学）、松下佳代（京都大学）

10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　声楽実技卒業試験を ICE モデルルーブリックで評価する試み
○中西千春（国立音楽大学）、本島阿佐子（国立音楽大学、非会員）、柞磨昭孝（広島県立祇園北高校、非会員）
11:00～11:20　能動学習による学生の能力変化
○立川明（高知大学）
11:20～11:40　アクティブラーニングの評価の論点と課題
○松下佳代（京都大学）、山田勉（京都大学大学院）、武田佳子（京都大学大学院）、杉山芳生（京都大学、非会員）
11:40～12:00　総合討論

部会５　教学 IR・学習成果測定(1)
会　場：K209
司　会：鳥居朋子（立命館大学）、皆本晃弥（佐賀大学）
9:30～ 9:50　ラ―ニング・ポートフォリオによる佐賀大学学士力達成度の可視化とその教育改善への活用
○山内一祥（佐賀大学）、皆本晃弥（佐賀大学）
9:50～10:10　情報教育における学習管理システムの利用がもたらす学習効果
○佐藤尊範（東海学院大学）
10:10～10:30　各種のデータを繋ぐことから明らかになる授業改善の視点
○川越明日香（熊本大学）、橋本健夫（長崎国際大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　授業アンケートと成績データを活用した FD 活動の試み
○椋平淳（大阪工業大学）、馬場望（大阪工業大学、非会員）、村岡雅弘（大阪工業大学、非会員）、皆川健多郎（大阪工業大学、非会員）、小林裕之（大阪工業大学、非会員）
11:00～11:20　京都外国語大学に対する社会的要請とこれまでの教育成果：卒業生調査の分析から
京都外国語大学（○西出崇、西村政洋）、村上正行（京都外国語大学）、山﨑その（京都外国語大学）
11:20～11:40　総合討論

部会６　初年次教育(1)
会　場：K210
司　会：山田礼子（同志社大学）、小田隆治（山形大学）
9:30～ 9:50　初年次学生レポートにおけるインターネット上の参考文献の分析
○宮本淳（愛知医科大学）、仙石昌也（愛知医科大学）、橋本貴宏（愛知医科大学）、山森孝彦（愛知医科大学、非会員）、久留友紀子（愛知医科大学、非会員）
9:50～10:10　初年次教育における科学実験が文系学部学生の専門教育課程に与える影響
○鎌滝晋礼（九州大学）
10:10～10:30　エビデンスに基づくカリキュラム改善プロセスとデザイン－初年次教育における専門科目を事例として－
○千葉美保子（関西大学）、森朋子（関西大学）、紺田広明（関西大学）、岩崎千晶（関西大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　初年次教育テキストの開発と今後の課題－教養教育とディシプリンとの関連を鑑みて
○井下千以子（桜美林大学）
11:00～11:20　総合討論

部会７　学生支援(1)
会　場：K305
司　会：青野透（徳島文理大学）、大森不二雄（東北大学）

9:30～ 9:50　障害のある学生支援を行う支援室と連携した障害、特に発達障害のある学生への授業支援Ⅱ
○田実潔（北星学園大学）、佐藤祐基（北星学園大学、非会員）

9:50～10:10　大学間連携による障がい学生支援のノウハウ共有の試み
○濱田里羽（金沢大学）

10:10～10:30　留学経験と留学希望の有無による留学観の違い
○反橋一憲（早稲田大学大学院）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　国立大学法人での授業料免除の実態について
○鳥居聖（桜美林大学）

11:00～11:20　大学生の貧困研究に関する知見の概観と学生支援の課題
○佐藤龍子（龍谷大学）

11:20～11:40　イギリスの学生支援政策
○江原昭博（関西学院大学）

11:40～12:00　総合討論

部会８　大学生
会　場：K312
司　会：沖清豪（早稲田大学）、山田剛史（京都大学）

9:30～ 9:50　大学生を対象にした自己変容プログラムの試み－エゴグラムを用いて－
○佐瀬竜一（常葉大学）

9:50～10:10　異文化コミュニケーションにおける日韓大学生の自己開示に関する比較研究
尚絅学院大学（○呉正培）

10:10～10:30　「移動する学生」の入学動機と適応 －「大学生の学習・生活実態調査」(2008) の二次分析
○遠藤健（早稲田大学大学院）、沖清豪（早稲田大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　1990年代中国の大学における課外活動と学生思想指導 －教科指導との比較に着目して
○呉嬌（名古屋大学大学院）

11:00～11:20　大学生のジェンダー意識の変容に関する調査：２０年前と比較して
○渡辺かよ子（愛知淑徳大学）、石川敦子（愛知淑徳大学、非会員）、小野美和（愛知淑徳大学、非会員）、加藤みわ子（愛知淑徳大学、非会員）、坂田陽子（愛知淑徳大学、非会員）、中村奈津子（愛知淑徳大学、非会員）、渡辺直登（愛知淑徳大学、非会員）

11:20～11:40　総合討論

部会９　キャリア教育
会　場：K313
司　会：佐藤万知（広島大学）、清水栄子（愛媛大学）

9:30～ 9:50　若手職業人の持つ大学での学習に関する職業的レリバンス認識：聞き取り調査の分析を通じて
○二宮祐（群馬大学）

9:50～10:10　青年期の挫折経験とレジリエンス
○松尾美香（岡山理科大学）、○望月雅光（創価大学）

10:10～10:30　受け入れ企業の立場から見た海外インターンシップの課題と可能性
○長谷川詩織（BMF Global）

10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　プレ FD における研究・教育・社会貢献統合の実践と評価
○大山牧子（大阪大学）、佐藤浩章（大阪大学）
11:00～11:20　大学における大学院生の能力・キャリア開発の在り方と可能性について
○家島明彦（大阪大学）、浦田悠（大阪大学、非会員）、根岸千悠（大阪大学、非会員）、佐藤浩章（大阪大学）
11:20～11:40　総合討論

部会１０　大学運営・IR
会　場：K314
司　会：川島啓二（九州大学）、白川優治（千葉大学）
9:30～ 9:50　大学規模別に見た IR 活動の類型化：実践事例報告を用いて
○白石哲也（清泉女子大学）、橋本智也（京都光華女子大学、非会員）
9:50～10:10　分散型 IR 体制における人材育成プログラムの開発
○姉川恭子（早稲田大学）、中山勝博（早稲田大学、非会員）、山田晃久（早稲田大学、非会員）、永間広宣（早稲田大学、非会員）
10:10～10:30　研究大学系ビジネススクールへの対抗軸形成に関する研究
○戸田千速（東京大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　ブラジルの高等教育における評価と質保証－全国学力試験 ENADE をめぐる高等教育機関の対応事例－
○山口アンナ真美（北海道教育大学）、塚原修一（関西国際大学）
11:00～11:20　大学教育の分野別質保証の取り組みと特徴－分野別評価機関における「基準」の比較から－
○蝶慎一（東京大学大学院）
11:20～11:40　大学生の成長を捉えるための取り組み―地域の高等学校および企業・団体等，大学教員を対象とした調査から―
○齋藤信（四日市大学）
11:40～12:00　総合討論

12：00～13：00　昼食

13：00～15：00　自由研究発表 II　（○は登壇者）

部会１１　教養教育
会　場：K103
司　会：羽田貴史（東北大学）、福留東土（東京大学）
13:00～13:20　共通教育の定食化に伴う成果と課題および受講生の意識変化
○小川勤（山口大学）
13:20～13:40　共通教育科目の課題と挑戦
○清水亮（神戸学院大学）
13:40～14:00　「日本哲学」批判の問題―教養の要件を考える
○加藤恒男
14:00～14:20　教養教育における文学の意義
○金子章予（西武文理大学）
14:20～14:40　東アジアのリベラルアーツ教育：価値・役割・挑戦
○米澤彰純（東北大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１２　プロジェクト型学習
会　場：K109
司　会：中井俊樹（愛媛大学）、佐藤浩章（大阪大学）
13:00～13:20　プロジェクト学習におけるリフレクションのデザイン
○上田勇仁（大阪大学大学院）
13:20～13:40　大学の産学協同型ＰＢＬ科目におけるルーブリック評価の開発―「振り返り」に着目して―
○今西正和（法政大学大学院）
13:40～14:00　メタ認知的活動を中核とした PBL デザイン
○広石英記（東京電機大学）
14:00～14:20　地域連携 PBL を活用した 2 年次教育
○田尻慎太郎（横浜商科大学）
14:20～14:40　演劇創作を取り入れたプロジェクト学習の成果と課題　～岐阜県美濃加茂市・早稲田大学文化推進部の文化交流協定を事例として～
○大前研二（早稲田大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１３　教育方法・授業改善(4)
会　場：K110
司　会：筒井洋一（元京都精華大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）
13:00～13:20　ＴＥＭ（複線径路・等至性モデル）を用いた日本語実践研究の提案
○三宅若菜（桜美林大学）、○福島智子（桜美林大学）
13:20～13:40　レポートスキルアップのためのプレゼンテーション導入の試み
○佐藤広子（創価大学）
13:40～14:00　PBL を取り入れた初年次ライティング教育の実践とその成果
○近藤裕子（大正大学）
14:00～14:20　中級者を上級レベルへ導く英語コミュニケーション力向上プログラム策定の試み
○村山真理（東京農工大学）、岩田陽子（東京農工大学）
14:20～14:40　レポート論題と評価の種類
○成瀬尚志（京都光華女子大学短期大学部）、児島功和（山梨学院大学）、崎山直樹（千葉大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１４　教育方法・授業改善(5)
会　場：K203
司　会：池田輝政（追手門学院大学）、夏目達也（名古屋大学）
13:00～13:20　リーダーシップ開発ワークショップの実践と評価
○舘野泰一（立教大学）
13:20～13:40　産学連携教育の教育的意義 ―慶應義塾大学の情報教育の取組を手掛かりに―
○李麗花（広島大学）
13:40～14:00　持続的な地域活動プログラムの再構築に向けて―学生の学びと地域状況からの考察―
○櫻井典子（新潟大学）、松井克浩（新潟大学、非会員）、箕口秀夫（新潟大学、非会員）、松井賢二（新潟大学）、高橋秀樹（新潟大学、非会員）
14:00～14:20　京都工芸繊維大学・リーダーシップ・イノベーター育成教育
○津吹達也（京都工芸繊維大学）、筒井洋一（元京都精華大学）
14:20～14:40　高大社の協働講座による地域人材育成の可能性
○吉村充功（日本文理大学）、島岡成治（日本文理大学、非会員）、近藤正一（日本文理大学、非会員）、橋本堅次郎（日本文理大学、非会員）、池畑義人（日本文理大学、非会員）、市田秀樹（日本文理大学、非会員）、鈴木照夫（日本文理

大学、非会員）

14:40～15:00　総合討論

部会１５　教学 IR・学習成果測定(2)

会　場：K209

司　会：深堀聡子（国立教育政策研究所）、近田政博（神戸大学）

13:00～13:20　教学マネジメント全体像可視化の一考察－教学マネジメントの機能分析による－

○辰巳早苗（追手門学院大学）、鈴木克明（熊本大学、非会員）、平岡斉士（熊本大学、非会員）、江川良裕（熊本大学、非会員）

13:20～13:40　主体性によって学修のスタイルはどのように異なるのか

○小田部貴子（福岡工業大学）、宮本知加子（福岡工業大学）、松高政（京都産業大学、非会員）、西條秀俊（新潟大学、非会員）、高澤陽二郎（新潟大学、非会員）、長尾繁樹（成城大学、非会員）

13:40～14:00　内部質保証システムにおける教学 IR のデザイン

○森朋子（関西大学）、紺田広明（関西大学）、竹中喜一（大阪大学大学院）、土井健嗣（関西大学、非会員）

14:00～14:20　内部質保証システムにおける教学 IR の実践

○紺田広明（関西大学）、森朋子（関西大学）、千葉美保子（関西大学）、岩崎千晶（関西大学）

14:20～14:40　大学教育の質の向上に向けたボトムアップ型 FD の取り組み

○岩瀬峰代（島根大学）、原田健太郎（島根大学）、鹿住大助（島根大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１６　教学 IR・学習成果測定(3)

会　場：K210

司　会：松下佳代（京都大学）、串本剛（東北大学）

13:00～13:20　大学生の学習時間に与える影響要因研究―高校 1・2 年と大学受験期の学習時間の加熱/冷却に着目して―

○三好登（大分大学）

13:20～13:40　学生による学生調査の特徴と意義に関する考察－「学生 IR」の可能性

○渡辺健太郎（大阪大学大学院）、上畠洋佑（金沢大学）

13:40～14:00　大学生の学術情報リテラシーの評価とその習得傾向の検討　―Can-Do table の開発を通じて―

○飯尾健（京都大学大学院）

14:00～14:20　専門コンピテンスの達成感が教育満足度に与える影響

○喜始照宣（一橋大学）

14:20～14:40　学生の主体性を引き出す導入教育としてのオリエンテーションの再構築　―教学 IR としての学習成果アセスメント―

○近藤伸彦（首都大学東京）、高橋検一（大手前大学、非会員）、高村麻実（大手前大学）、西尾信大（大手前大学、非会員）、吉川博行（大手前大学、非会員）

14:40～15:00　総合討論

部会１７　ラーニングコモンズ

会　場：K305

司　会：岩崎千晶（関西大学）、長澤多代（三重大学）

13:00～13:20　金沢大学における学習環境調査の実践－学習環境における行動観察とエスノグラフィを通して

○上畠洋佑（金沢大学）、中野正俊（金沢大学）、井上咲希（金沢大学、非会員）、北島大器（株式会社ラーニング・イニシアティブ、非会員）

13:20～13:40　ラーニング・コモンズの利用学生タイプと学習成果－同志社大学良心館 LC を事例に－
○浜島幸司（同志社大学）、井上真琴（同志社大学）、同志社大学（岡部晋典、鈴木夕佳、野田宣彦、山口夏奈、三宅重彰、大島佳代子）

13:40～14:00　東北学院大学 学部２年生の授業時間外学習に関する調査－ラーニング・コモンズでの学習支援の検討に向けて－
○遠海友紀（東北学院大学）、嶋田みのり（東北学院大学）、佐藤恵（東北学院大学）、村上正行（京都外国語大学）、稲垣忠（東北学院大学、非会員）

14:00～14:20　ラーニング・コモンズにおける利用者ガイダンスの実践と評価
○嶋田みのり（東北学院大学）、遠海友紀（東北学院大学）、佐藤恵（東北学院大学）、帖佐和加子（東北学院大学、非会員）、稲垣忠（東北学院大学、非会員）

14:20～14:40　日本語ライティングセンターにおける支援を再考する―利用者が求める支援とセッション目標に着目して
○宮原千咲（創価大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１８　学生支援(2)
会　場：K312
司　会：木野茂（元立命館大学）、安部有紀子（大阪大学）

13:00～13:20　学生プロジェクトチームによる正課外活動への複数年度に渡る参加経験を通した学生教育効果の検討
○長谷川誠（千歳科学技術大学）

13:20～13:40　Ａ公立大学看護学生の学生ＦＤ活動と大学への愛着形成
○吾郷美奈恵（島根県立大学）、木野茂（元立命館大学）

13:40～14:00　大学院生が求める異分野交流：大学院生発案企画「研究コン」実践報告
○萩原広道（京都大学大学院）、安松亮（京都大学、非会員）、應地晴香（京都大学、非会員）、高田晃児（京都大学、非会員）、下西慶（京都大学、非会員）、森倉遼太（京都大学、非会員）、岡島陽子（京都大学、非会員）、中島達弥（京都大学生活協同組合、非会員）

14:00～14:20　ティーチング・アシスタント（TA）を支援する研修のあり方 ―愛媛大学における TA・SA 研修会の事例から―
○加地真弥（愛媛大学）

14:20～14:40　学修支援・学生支援の方針（バックアップポリシー）の生成過程
○杉森公一（金沢大学）、上畠洋佑（金沢大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１９　初年次教育(2)
会　場：K313
司　会：川嶋太津夫（大阪大学）、出光直樹（横浜市立大学）

13:00～13:20　初年次教育における多文化クラスの教育的効果：日本の学生が留学生との協働から学ぶこと
○山田悦子（北海道大学）

13:20～13:40　学生の主体性を引き出す導入教育としてのオリエンテーションの再構築 ――上級生を活用した新入生の大学適応プログラムの実施と成果――
○川崎弘也（株式会社ラーニングバリュー）、本田直也（大手前大学）、吉川博行（大手前大学、非会員）

13:40～14:00　学生の主体性を引き出す導入教育としてのオリエンテーションの再構築　―関わった上級生たちのその後のさらなる PBL―
○本田直也（大手前大学）、川崎弘也（株式会社ラーニングバリュー）、寺田未来（大手前大学、非会員）

14:00～14:20　北陸大学「21 世紀型スキル育成ＡＯ入試」の結果について
○山本啓一（北陸大学）、島義博（北陸大学、非会員）、鈴木大助（北陸大学、非会員）、胡光輝（北陸大学、非会員）、東風安生（北陸大学、非会員）
14:20～14:40　総合討論

部会２０　教職協働・教職員能力開発
会　場：K314
司　会：秦敬治（追手門学院大学）、杉本和弘（東北大学）
13:00～13:20　研究が主要業務とはいえない大学教員のアイデンティティーと役割葛藤～ブラウォイ＝パスコソリド・モデルによる分析の試み
○宇田川拓雄（流通科学大学）
13:20～13:40　カナダにおける教育専念教員の実態について－導入の背景、特徴、課題－
○沖裕貴（立命館大学）
13:40～14:00　学生の主体性を引き出す導入教育としてのオリエンテーションの再構築－キックオフプログラムの概要と成果（ＳＤの観点から）－
○高村麻実（大手前大学）、近藤伸彦（首都大学東京）、高橋検一（大手前大学、非会員）、寺田未来（大手前大学、非会員）、西尾信大（大手前大学、非会員）
14:00～14:20　事務職員のロールモデル形成に向けたポートフォリオの試行的導入
京都産業大学（○堀田幸平、大塚貴志）
14:20～14:40　教育・学修支援の専門性を備えた人材を養成する SD プログラムの試み－千葉大学「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」試行コースの実施－
○御手洗明佳（千葉大学）、白川優治（千葉大学）、岡田聡志（千葉大学）、竹内比呂也（千葉大学）、千葉大学アカデミックリンクセンター（藤本茂雄、小野永貴、池田光雪、山中弘美、三角太郎、塩田知也、小林裕太、西原朝子）
14:40～15:00　総合討論

15:00～15:15　休憩

15:15～16:45　ポストワークショップ（会員限定、事前受付者のみ）

ポストワークショップ A「アクティブラーニング型授業の基礎－教師と学生との関係性・身体性に焦点を当てて」講師：溝上慎一会員（京都大学）　会場：K202

ポストワークショップ B「思考を鍛えるアカデミックライティング入門－アクティブラーニングによる授業展開」講師：井下千以子会員（桜美林大学）　会場：K302

３．参加申し込みについて

大会への参加申し込みは下記 URL からご登録ください。学会ホームページからアクセスできます。大会参加申し込み URL：http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku39

【参加費用一覧】

費用項目		申込日	
		5 月 12 日(金)までの事前支払	大会当日
参加費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	2,000 円	3,000 円
情報交換会費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円
6 月 11 日（日）のお弁当代		1,000 円（税込）	
『要旨集』のみ希望		2,000 円（送料込）	
6 月 10 日（土）若手交流会参加費 （会員・一般・学生）		5 月 12 日までに参加の意思のみお知らせください。会費（3,000 円）は当日徴収します。都合が悪くなった場合は 6 月 7 日までに yngmbs@googlegroups.com に連絡をしてください。それ以降はキャンセル料が発生します。	
6 月 11 日（日）ポストワークショップ参加費 （会員限定） （事前受付者のみ）		5 月 12 日までに参加の意思のみお知らせください。後日、学会事務局より参加の可否をメールで通知します（参加希望者多数の場合は、受付順にさせていただき、お断りすることがありますのでご了承下さい）。なお、参加可能の場合は事前に参加費（5,000 円、テキスト代込み）をメールで別途指定する口座に振り込んでいただきます。その後参加不可になった場合も返金はできません。代理の方に出席いただくことは可能です。どなたも参加できない場合はテキストを後日郵送します。テキストが不要でも割引はありません。	

●参加にかかる合計金額（情報交換会参加・お弁当代を含む）を **5 月 12 日（金）までに郵便局等からお振り込み下さい（振込手数料はご負担下さい）**。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。複数名で申し込みをする場合は、次の点を必ず振込み用紙に記載してください。【大学名及び参加者氏名（全員分）、申込内容（参加費、情報交換会費、お弁当代）、問い合わせ時の連絡先の電話番号、参加登録申込時の受付番号】

※参加登録が完了すると、ご入力いただいたメールアドレスに受付番号を含んだ登録完了メールが自動返信されます。

●要旨集費（2,000 円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●振替口座は 5 月 12 日（金）の入金を待って閉鎖します。5 月 12 日（金）までに事前にお申し込みをされなかった方は、大会当日（6 月 10 日（土）～11 日（日））に受付にてお支払いください。

●支払方法は次の通りです（振替口座は 5 月 12 日（金）の入金を待って閉鎖します）。

・ ゆうちょ銀行から

ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATM により以下へお振込下さい。

口座記号番号：01350-9-92355

加 入 者 名 ：大学教育学会第 39 回大会実行委員会

（ダイガクキョウイクガッカイダイサンジュウキュウカイタイカイジッコウイインカイ）

・ 郵便局以外の金融機関から

銀行名（金融機関コード）：ゆうちょ銀行（9900）
店名（店番）：一三九（イチサンキュウ）店（139）
預金種目　　：当座
口座番号　　：0092355
加入者名　　：大学教育学会第 39 回大会実行委員会
（ダイガクキョウイクガッカイダイサンジュウキュウカイタイカイジッコウイインカイ）

４．宿泊予約・託児室利用について

●宿泊予約について

大学教育学会第 39 回大会にご参加の皆様方の宿泊は、「京王観光株式会社大阪西支店」にて案内させていただきます。会場への交通の便の良いホテルをご案内させていただきます。予約は先着順となりますので、ご宿泊手配ご希望のご参加の皆様は下記の URL から宿泊登録をお済ませ下さい。予約ページには学会ホームページからもアクセスできます。

宿泊予約 URL：http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku39s

※昨今外国からの観光客の増加に伴いホテルの手配が非常に難しくなっております。お早めの予約をお勧めいたします。なお早期に満室となる可能性がございますので予めご了承ください。（キャンセル待ちの受付はいたしておりません。）

募集期間　：2017 年 4 月 17 日(月)～2017 年 5 月 12 日（金）
宿泊設定日：2017 年 6 月 9 日（金）、6 月 10 日（土）の宿泊分
ホ　テ　ル：東広島・広島方面のホテルをご案内いたします。ホテル詳細は宿泊登録の HP から詳細ご確認下さい。
支払方法　：銀行振込または、クレジットカードでのお支払となります。
【銀行口座】三菱東京 UFJ 銀行　振込第一支店
種別：当座預金　口座番号：9530900 加入者名：京王観光（株）

※お支払方法で銀行振込をご選択の場合は、2017 年 5 月 19 日（金）までに当社指定の口座へお振込み下さい。

＜お問い合わせ先＞
京王観光株式会社 大阪西支店
〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-3-15 ＪＥＩ西本町ビル 6Ｆ
TEL：06-6576-8828　FAX：06-6541-8820　（平日 09:00～18:00・土日祝日休業）
メールアドレス：a.muroyama@keio-kanko.co.jp
担当　室山　絢子　（むろやま　あやこ）・薬師寺　里佳（やくしじ　りか）

●託児室の開設について

大学教育学会第 39 回大会にご参加の皆様方で託児室を必要とする場合は、下記までメールにてご連絡ください。下記の申込み期間中にご希望の方がいらっしゃる場合は託児室を開室致します。

開室日時　：2017 年 6 月 10 日（土）　9:00～18:00
　　2017 年 6 月 11 日（日）　9:00～17:00
申込み期間：2017 年 4 月 17 日（月）～6 月 5 日（月）
対象年齢　：小学校 6 年生まで
利　用　料：1 日あたり、お子さまお一人につき 1,000 円

※お申込みに際しては、申込者のお名前・ご所属、お子さまのお名前・年齢・性別・アレルギーの有無をお知らせください。なお、ご病気の場合はお預かりできません。また、ご利用いただく場合、当日の昼食、お気に入りのおもちゃ・本・学習用具などはご持参ください。

＜お申込み先＞
大学教育学会第 39 回大会実行委員会　事務局（E-mail: jacue39@hiroshima-u.ac.jp）

５．広島大学 東広島キャンパスへのアクセス

山陽本線を利用する場合

JR 西条駅 ―(バス約 20 分 290 円)→

新幹線を利用する場合

JR 東広島駅 ―(バス約 15 分 380 円※土日運休。ただし下記のとおり臨時便あり)→

(タクシー約 15 分約 2,000 円)

飛行機を利用する場合

広島空港 ―(バス約 15 分 390 円)― JR 白市駅 ―(JR 約 10 分 200 円)― JR 西条駅 →

≪広島市内より≫

山陽本線を利用する場合

JR 広島駅 ―(約 40 分 580 円)― JR 西条駅 ―(バス約 20 分 290 円)→

≪広島市内より≫

高速バスを利用する場合

広島バスセンター ―(高速バス「グリーンフェニックス」約 60 分 870 円)→

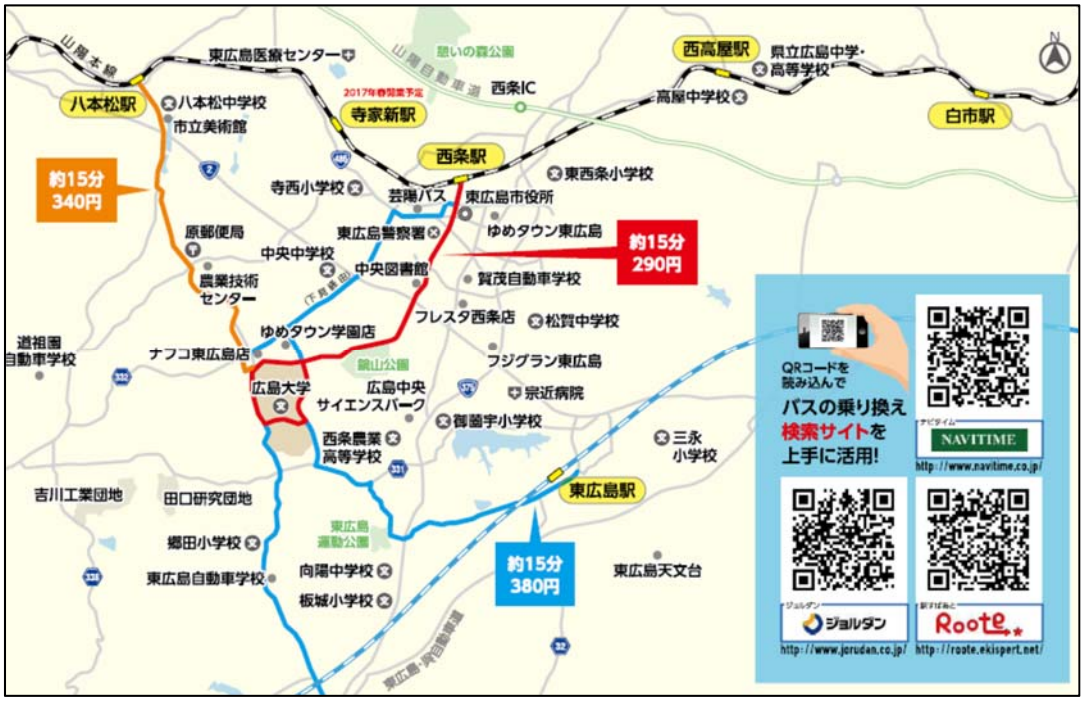
東広島キャンパス バス停 広大西口

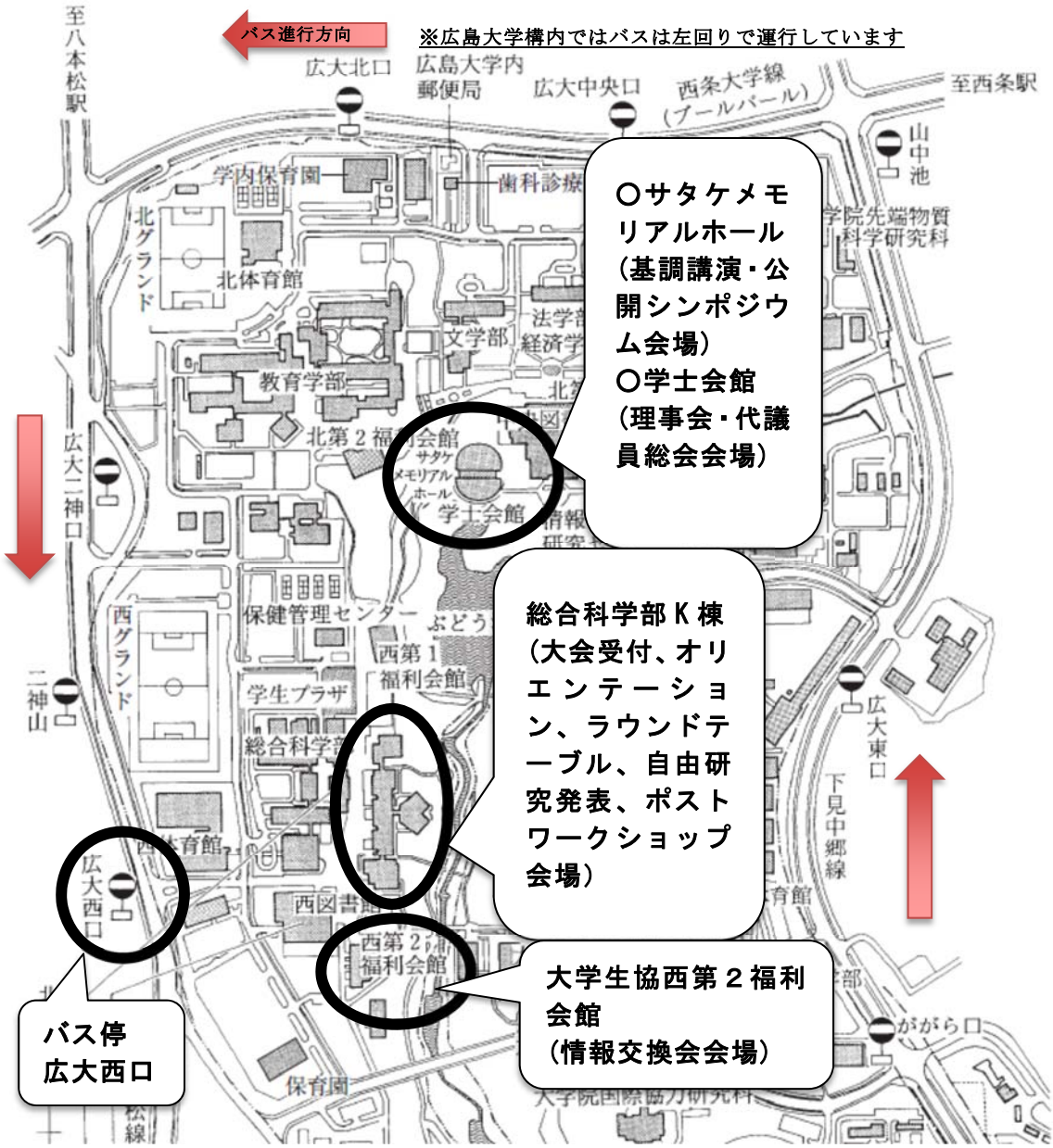
※詳しいアクセスの方法は広島大学ホームページでご確認ください。

http://hiroshima-u.jp/access/higashihiroshima

※JR 東広島駅（新幹線）発着バス臨時便について
6 月 10 日（土）JR 東広島駅 8:50 発－広大西口 9:04 着（学会借り上げ）
JR 東広島駅 9:20 発－広大西口 9:34 着（中国 JR バス）
6 月 11 日（日）広大西口 15:14 発－JR 東広島駅 15:26 着（中国 JR バス）

＜東広島キャンパスマップ（会場周辺）＞





●2017 年度大学教育学会課題研究集会について

2017 年度課題研究集会 企画委員会・実行委員会

2017 年度課題研究集会（開催校：関西国際大学）は、12 月 2 日（土）～3 日（日）に、関西国際大学尼崎キャンパスで開催予定です。全体テーマを「大学教育は“役に立つ”のか」としました。
就職状況は好転したと言われつつも、就業構造が大きな変革期にあり、とにかく就職したら何とかなるということが言えなくなりました。大学教育は中長期的な視点に立って、学生にどのようなことを身につけさせ、あるいは学ばせ、修得させることが必要なのでしょうか。

アクティブラーニングが伸ばそうとしている力、あるいは STEM 教育を通じて身につけさせようとしている力、いずれも大学側が何らかの役に立つことを期待して設定している課題です。一方、社会からも先端的な教育であるとか、教養であるとか、さまざまな立場から、役に立つ大学教育が求められています。
これらを視野に入れつつ、本課題研究集会では、“役に立つ”ということがどのような意味を持ち、大学教育が果たす役割とは何なのかということを、原点に返って問い直してみたいと考えています。

前年度と同様に、「ポスター・セッション」、また新しい試みとして「インタラクティブ・セッション」を実施いたします。いずれも発表資格や内容等は大会の「自由研究」と同等ですが、**申し込みの日程が例年より早まっておりますのでご留意ください。**

「ポスター・セッション」は、個別参加者と情報のやり取りができ、深い対話が可能な発表方法です。人的ネットワークも構築しやすいものです。1 発表につき、高さ 180cm×幅 90cm のパネルを用意します（テーブルや電源、インターネット等はありません）。各自でポスターを印刷し、準備ください。また予稿集に掲載する原稿を事前に提出していただくことになります（A4×1 頁）。

「インタラクティブ・セッション」は、今大会から試験的に運用されるものです。これまでの課題研究集会においては、会員数の増加による参加者数の増加による会場設営の難しさ（参加者の 1 教室集中に対する収容力の限界）への対応、会員の問題関心の多様化に対応しきれていない（単独課題では吸収し得ないニーズ）等の諸課題がありました。こうした課題を解決すると同時に、会員間の交流をより深化・拡大することをめざすために本セッションが設定されました。

本セッションでは、1 発表につき、30 分ないしは 60 分とし、大会時の「自由研究」よりも時間が長く設定されています。その際、発表者による情報提供の時間は 5~6 割程度にとどめ、質疑応答や全体議論の時間に加え、参加者同士でのペアもしくはグループワークの時間を十分にとっていただくこととしています。予稿集に掲載する原稿を事前に提出していただくことになりますが、内容の要約に加えて、どのような時間配分で展開されるかについてもお書きください。（A4×2 頁）。

企画委員会で内容を検討し、発表の可否をお伝えしますが、発表できない場合は自動的にポスター・セッションでの申し込みとして扱います。発表可能な場合、同種の内容を連続で並べて 1 つのセッションとするよう提案させていただく可能性もあります。参加者数については、定員を設け、先着順で締め切ります。

具体的なスケジュールの予定等につきましては、次ページをご確認ください。みなさまの積極的な発表お申込み・ご参加をお待ちしております。

2017 年度大学教育学会課題研究集会プログラム（案）

【統一テーマ】「大学教育は“役に立つ”のか」
【会場】関西国際大学　尼崎キャンパス
【プログラム案】
12 月 2 日（土）
11:00～ 受付開始・ポスター準備
12:00～13:00 ポスター・セッション（コアタイムⅠ）
13:00～ 開会の挨拶等
13:30～14:30 基調講演
14:30～15:30 ポスター・セッション（コアタイムⅡ）
15:30～18:00 開催校企画シンポジウム　テーマ「大学教育は“役に立つ”のか」
18:30～20:00 情報交換会
12 月 3 日（日）
9:00～ 受付開始
9:30～12:00　課題研究シンポジウムⅠ／インタラクティブ・セッション
12:00～13:15 昼食
13:15～15:45 課題研究シンポジウムⅡ／インタラクティブ・セッション
15:45～16:00 閉会の挨拶等

※プログラム等については、変更される場合があります。プログラム内容の詳細、参加申し込み方法等については、次回のニュースレターにてお知らせいたします。

【ポスター・セッションならびにインタラクティブ・セッションの今後の予定】

・2017 年 6 月 12 日（月）：発表申込開始（学会ウェブサイトで案内）
・2017 年 8 月 25 日（金）：申込締切（要旨提出。2017 年度分迄の会費納入締切含む）
・2017 年 9 月 7 日（木）：企画委員会で両セッションの審査
・2017 年 9 月中旬：発表可否通知メール送信
・2017 年 12 月 2 日（土）：ポスター・セッション発表
・2017 年 12 月 3 日（日）インタラクティブ・セッション発表

〈関係学会の行事のご紹介〉

日本高等教育学会創設 20 周年記念行事
「新制大学の過去、現在、未来：～転換期に立つ大学～」

○日時： 2017 年 5 月 14 日（日） 13:00～17:00
○会場：実践女子大学［渋谷キャンパス］(東京都渋谷区東 1-1-49) 渋谷駅から徒歩約 10 分
○参加申込：会員・非会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。参加費無料。
「日本高等教育学会」ウェブサイトの参加申込フォームより 5 月 10 日（水）までにお申し込みください。
https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JAHER
○プログラム
挨拶：荒井 克弘（独立行政法人大学入試センター特任教授、本学会会長）
記念講演 ：「新制大学 70 年」大崎 仁（人間文化研究機構機構長特別顧問、本学会設立発起人）
シンポジウム：「転換期に立つ大学」
趣旨と背景：荒井 克弘；報告１：大学の制度・政策の課題 舘 昭（桜美林大学教授、本学会元会長）；報告２：大学の自律性とファンディング 上山 隆大（内閣府総合科学技術･イノベーション会議常勤議員）；報告３：“市場化”とこれからのデザイン 濱名 篤（関西国際大学学長）；コメンテーター：矢野眞和（東京工業大学名誉教授、本学会元会長）；司会：伊藤 彰浩（名古屋大学教授)、杉谷 祐美子（青山学院大学教授)
(本件に関するお問い合わせ先:日本高等教育学会事務局 g005jaher-mng@ml.gakkai.ne.jp)

＝理事会便り＝

（理事会の詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されています。）

● 「ミッションステートメント 2016」について

「ミッションステートメント 2016」が以下のように制定されました。
「大学教育学会は、大学教育に関わる知の交流と実践による革新を進め、学術に根ざした成果を広く世界に発信して、社会に貢献する教養ある人間の育成に寄与します。」

● 将来構想委員会の設置について

将来構想委員会が設置され、持続可能な学会運営の将来像を見据えながら、各種事業の企画運営について検討することになります。規程、委員はウェブサイトをご覧ください。

● 新規課題研究の選定について

「現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践 」（代表者：細川敏幸）が新規課題研究として選定されました。研究期間は 2017 年度～2018 年度の 2 年間です。

● 2016 年度会長特別賞について

「2016 年度会長特別賞」の受賞者が決定しました。受賞者は以下の 4 名です。
鳥居 朋子（立命館大学）
岡田 有司（東北大学）
川那部 隆司（立命館大学）
山田 剛史（京都大学）
受賞の対象業績：
「共通教育の質保証のためのマネジメントティップス Ver.1.0」
（英語版）”Management Tips for Quality Assurance in General Education Ver. 1.0”
授賞式は、第 39 回大会での事業報告会に先立ち執りおこなわれます。
なお、第 12 回奨励賞は、「該当者なし」となりました。

● **「JACUEセレクション2017」の認定について**

新たに始まった「JACUEセレクション」の2017年度認定候補が下記の3点に決定しました。

② 寺崎昌男編著『21世紀の大学：職員の希望とリテラシー』（株）東信堂

②小笠原正明、安藤厚、細川敏幸編著『北大教養教育のすべてーエクセレンスの共有をめざして』（株）東信堂

③中島英博、榊原暢久、小林忠資、稲垣忠『シリーズ大学教授法１　授業設計』玉川大学出版部

所要の手続きを経て正式に認定されれば、認定式を、第 39 回大会での会長特別賞授賞式に続いて執りおこないます。

● **オンライン会員検索サービスの提供について**

従来の会員名簿に代わって、オンラインでの会員検索サービスを提供することになりました。会員検索サービス提供は、個人会員、団体会員とし、検索対象は個人会員のみとします。

情報検索項目（基本情報）は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の 4 項目で検索（部分検索）可能とします。その他の情報は、会員本人の選択とし、可否確認を行うことになります。

提供までのスケジュールは、おおむね以下の通りです。

2017 年 4～5 月　「オンライン会員検索サービス」導入の周知
一斉メールによる開示情報の選択と会員情報更新の依頼
6～7 月　テスト環境のチェックと再度の会員情報確認の依頼
8 月　提供の開始（予定）

（電子メールをご利用にならない方は事務局までお申し出ください。）

＝事務局から＝

● **会費納入のお願い**

今年度（2017年度）の会費請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。5月12日（金）までにご入金ください。領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座　00120-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

ご入金は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会　学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

会費納入は、大会時の発表申込や課題研究集会時のポスターセッション参加申込の前提条件となっております。また過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送るなどの措置をとらせていただいております。皆様の速やかな早期納入をお願い申し上げます。

なお、納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。その際には、ID（会員番号）/PWが必要となります。

＜「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先＞

大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4F
TEL:03－5981－9824　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

● 住所変更等会員情報更新のお願い

新年度を迎え、ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更のほどお願い申し上げます。ID（会員番号）・PWを紛失された方は、前ページの大学教育学会　学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者DM便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信（メールマガジン）を配信しております。
しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い 【アーカイブズ委員会】

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。
大会発表要旨集録等（1979,1981, 2000, 2002, 2004 年）
課題研究集会要旨集（1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003, 2004,2005, 2008 年）
その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

● 大学教育学会第39回（2017年度）大会参加費・情報交換会費等の払込について

本ニュースレター（NL105号）に参加費・懇親会費等の払込について詳細をご案内しております。
また、参加費・情報交換会費等の払込用の払込取扱票についても同封しております。

● 2017年度課題研究集会について

2017年度課題研究集会（開催校：関西国際大）は、12月2日（土）・3日（日）　関西国際大学の尼崎キャンパスにて開催予定です。詳細は次回のニュースレター（106号、9月中旬発行予定）にてお知らせいたします。

● 大学教育学会第40回（2018年度）大会について

2018年度第40回大会は、日程を含めた詳細については未定ですが、筑波大学で開催予定です。

一般社団法人
大学教育学会

【学会事務局】
〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail:jacue.office@gmail.com
URL:http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】
大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4F
TEL:03－5981－9824　　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp